

患話休題

かんわきゅうだい

47



院長
真崎 雅和



アレルギーじゃないけどアレルギー性鼻炎？

くしゃみ・鼻水・鼻づまりは言わずと知れた鼻炎症状で、風邪の始まりの場合もあれば、花粉症を含めたアレルギー性鼻炎の場合もあります。

そもそも鼻炎とは、鼻呼吸しているわれわれ人間の鼻から有害な物質が入ってくるのを防ぐ防御反応といえます。微生物や花粉の侵入に対してくしゃみやみで吹き飛ばしたり、鼻水で洗い流したり、鼻を詰めてブロックしたりするわけです。

細菌とかウイルスによる鼻炎(感染性)と花粉やダニ抗原刺激による鼻炎(アレルギー性)、コショウによる鼻炎(刺激性)の違いは、刺激物を感じ取るセンサーの違いで、いずれの場合も最後は三叉神経の副交感神経を介した共通の反応です。ただし、細菌やウイルスとアレルギー抗原では、異物に対する排除処理の仕方が異なる部分があるので、修飾される症状には違いがあります。例えば感染性の場合、熱が出たり、膿性の鼻汁が出たりします。

さらさらした鼻汁が出て長引いている場合は、まずアレルギー性鼻炎を疑います。アレルギー性鼻炎はその粘膜の特徴的な色と腫れ具合から耳鼻咽喉科医であれば容易に判断が付きまします。さらに診断確定するために鼻汁中に白血球の一部であり、アレルギーと密接に関係する好酸球の存在を確かめます。それから、本来は原因となった抗原

(に対する抗体)を調べると確定診断になりませんが、季節性のものであればその時期の花粉であるうし、年がら年中であればだいたいはハウスダストやダニであることがほとんどのため、あえて調べていないで診断を告げることもあります。



ところが後日患者さんの希望などで抗体検査をすると、全て陰性だったという場合が約1割あり、説明に苦慮することもあります。

原因となる抗原が見つからない場合はアレルギー性鼻炎ではないのでしょうか？ 抗原が見つからない非感染性鼻炎患者さんのうち、3割は鼻汁中好酸球が陽性で、全身的な免疫異常と関連があると考えられています(好酸球増多性鼻炎)。残りは従来「血管運動性鼻炎」といわれ、アレルギーではなく、原因は明らかでないものの粘膜が敏感になったものとされてきました。しかし最近鼻粘膜の中でアレルギーを起こし、全身的に抗体形成に至らない(検査陰性)ものがあることが報告されるようになってきました。(従来法ではアレルギーと診断できなくとも、アレルギー性鼻炎の場合同様あります。

診察時間が近づいたことをお知らせする

約30分前
メールサービスを

ご利用ください。
ご希望の方はメルアドを受付へ!!



急患随時受付

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前 8:30~12:00	○	○	○	○	○	○	休診
午後 3:00~6:30	○	○	○	休診	○	△ 3:00~4:00	休診

真崎耳鼻咽喉科医院

TEL.018-845-0234 FAX.018-847-1321
秋田市土崎港中央6-8-3